

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Photo : Central Park ~ Strawberry Fields

《バグズ・NY ライフ》

今回はニューヨークの虫関係の話。その昔ニューヨークには直径 10cm 程のゴキブリがあたり前のように存在していたなんて話を聞いたことがある。レストランの地下室などで殺虫剤を撒いておくと、翌日には 10cm 級のゴキブリが一面にびっしりなんて想像したくもない話を聞いたことがあったが、自分がニューヨークに住んでいる間、そんなサイズのゴキブリに遭遇したことはなかった。

アメリカはなんでも大きいというイメージがあるが、自分のアパートで見かけるゴキブリは日本のサイズよりかなり小さく、1cm もないくらいの小型サイズのものがほとんどだった。日本のゴキブリはそれなりに大きく、すばしっこいため、放置する

にはかなりの勇気が必要で、家の中で見つけたら完全に仕留めるまで格闘するのが常だったが、ニューヨークでは特に気にせず放置していた。もちろん大量発生していたら、何かしらの処置はしていただろうが、たまに一匹出るか出ないくらいだったため、見逃してやるのがほとんどだった。

いきなりゴキブリの話になってしまったが、ニューヨークでは小猫級のネズミは見たことがあったが、虫関係は意外に少なかった気がする。大都会のマンハッタンだったからかもしれないが、もちろん自然が広がるセントラルパークには様々な生き物がいた。バッタなどもそれほど大きくはなく、夏から秋にはトンボが飛んでいたような記憶があるが、トンボも日本のオニヤンマほどのものは見かけなかった。また、日本のように夏にヤブ蚊に刺されるなんてこともなかった気がするが、せいぜい真夏にセミや鈴虫みたいな虫が鳴いているくらいだった。英語圏だから、日本のセミとは鳴き声も違うのかななんて思ったこともあったが、微妙に鳴き方が異なるツクツク法師はいたものの、日本のセミの鳴き声とそれほど大差はなかった。

なんだかんだ、ニューヨーク生活で一番身近に感じた生き物がゴキブリなのが悲しいが、ウェイターとして働いていたレストランではゴキブリは大きな問題で、訴訟大国アメリカではゴキブリ一匹で裁判沙汰になる可能性もあるため、悩みの種でもあった。ちなみにアメリカではゴキブリはコックローチと称され、スペイン語から派生したらしい。コックローチだと何となく響きが可愛らしく、ゴキブリの方が強靱なイメージだ。また、ニューヨークではゴキブリホイホイ的なものはなかった気がするが、ゴキブリが繁殖していそうな場所には大量にいると思うので、場所によってはキャンプ場のようにゴキブリホイホイを並べても追いつかないのかもしれない。

個人的には、ディズニー&ピクサー制作の映画『バグズ・ライフ』シリーズ、次回の『バグズ・ライフ 3』あたりで、ニューヨークに生息するゴキブリの物語を見てみたい気がするが、今回は虫関係の話と言いながら、ほぼゴキブリの話で恐縮です。

最後に、アパートで見かけるゴキブリは見逃してやるのがほとんどだったと言ったが、一度だけ始末したことがある。かなりの空腹時に近所のチャイニーズのテイクアウトで注文したローメン（焼きそば風の食べ物）をアパートで食べようと帰宅。蓋を開けて飲み物を用意していた際に、どこから飛んで来たのだろうか、コックローチの奴がローメンの中に入り込んでローメン中をあちこち動き回り、空腹を満たそうと心待ちにしていたローメンを台無しにされた時は、ローメンごと叩き潰してやった。